

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520047

研究課題名(和文)最後のインド密教——『ダーカールナヴァ・タントラ』が描くもう一つの姿——

研究課題名(英文) A Latest Form of Indian Esoteric Buddhism Taught in the *Ḍākārṇavatāntra*.

研究代表者

杉木 恒彦 (SUGIKI TSUNEHICO)

早稲田大学・国際教養学術院・講師

研究者番号：40422349

研究成果の概要(和文)：

インド最後期の密教経典である『ダーカールナヴァ・タントラ』が説くヘールカ曼荼羅は、サンヴァラ系密教伝統におけるヘールカ曼荼羅の尊格たちを中核とし、その他の密教諸伝統の曼荼羅の尊格たちやインド諸宗教に広く見られる下級神たち、そしてインド社会の親族構造を構成する親族成員(を尊格化した者たち)や、仏教コスモスを構成する神格たちから構成されたものであり、さらにこの曼荼羅全体に仏教コスモロジーとしての意味が付与されるという構造になっている。また、『ダーカールナヴァ・タントラ』の各章の教説は、上述ヘールカ曼荼羅の中核となるサンヴァラ系密教伝統の尊格たちと関連付けられている。このように、『ダーカールナヴァ・タントラ』には、サンヴァラ系密教伝統を骨格として仏教内外の様々な要素をそのコスモロジーの内に包摂した体系を構築しようという意図が見られる。

研究成果の概要(英文)：

The *Ḍākārṇavatāntra*, an esoteric Buddhist scripture composed in the final stage of the history of Indian Buddhism, expounds a wide-scale Heruka-*maṇḍala*. Deities constituting this *maṇḍala* are: deities from Heruka-*maṇḍala* widely taught in scriptures of the *Samvara* tradition of esoteric Buddhism, which are core deities of this *maṇḍala*; deities from *maṇḍalas* taught in other traditions in esoteric Buddhism; lower deities or spiritual beings widely worshiped both in Buddhist and non-Buddhist traditions; deified family-members who comprise the kinship structure in Indian society; and deities who reside in various worlds in the Buddhist cosmos. The whole structure of this *maṇḍala* is endowed with meanings that constitute a Buddhist cosmology. Furthermore, chapters of the *Ḍākārṇavatāntra* are related to deities of the Heruka-*maṇḍala* widely taught in the *Samvara* tradition of esoteric Buddhism, which are core deities of the Heruka-*maṇḍala* in the *Ḍākārṇavatāntra* as above described. It is very likely that compilers of the *Ḍākārṇavatāntra* developed a system whose bone structure was formed by the *Samvara* esoteric system and its cosmology, within which various elements both from Buddhist and non-Buddhist traditions were organized.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：(分科) 哲学 (細目) 印度哲学・仏教学

キーワード：密教、仏教、ヒンドゥー教、南アジア、ダーカールナヴァ

## 1. 研究開始当初の背景

インド仏教の最後期の姿にはまだ不明な点が多い。インド仏教最後期に編纂された大部の経典として『ダーカールナヴァ・タントラ』(Dākārnavatātra)があるが、同経典の文献学的研究は未だ初期の段階にある。同経典の文献学的基礎研究を進めることにより、課題の多いインド仏教最後期の姿の一面に迫ることができる、本研究代表者は考えた。

## 2. 研究の目的

『ダーカールナヴァ・タントラ』のコアとなる第15章(本体系の各種儀礼実践に用いられるヘールカ曼荼羅ならびにその象徴的意味等がまとめて説かれる)の梵語校訂テキストを作成し、それを中心として『ダーカールナヴァ・タントラ』全体の組織的概説書を英語論文として刊行し、学会の進展に国際的に寄与することが、本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

『ダーカールナヴァ・タントラ』梵語写本群(ならびにその西藏語訳)と、関連する諸文献の梵語写本群・梵語校訂テキスト・西藏語訳を用い、文献学的手法を用いて上記経典の解説ならびに第15章の梵語校訂テキストを作成した。資料収集のために、ネパールやインドに毎年度短期の写本調査旅行を行った。

## 4. 研究成果

### 1. はじめに

前述のように、本研究の主要目的は『ダーカールナヴァ・タントラ』第15章の梵語校訂テキストの刊行にあるが、ここに校訂テキストの全体を掲載することは困難である。したがって、ここでは同章が説くヘールカ曼荼羅の構造・意味と、このヘールカ曼荼羅と同経典全体の教説の関係性を簡潔に論じることにより、本報告書における研究成果報告としたい。

『ダーカールナヴァ・タントラ』は996尊より構成される壮大な曼荼羅を説く。この曼荼羅は、サンヴァラ(Samvara)系密教の主尊ヘールカ(Heruka)とその妃ヴァジュラヴァーラーヒー(Vajravārāhī)を主尊とする。ジャヤセーナ(Jayasena)流等の『ダーカールナヴァ・タントラ』儀軌文献群に説かれる曼荼羅は、このヘールカ曼荼羅である。同系統の類似の曼荼羅を、『ヴァーラーヒーカルパ・タントラ』(Vārāhīkalpatātra)にも見出

すことができる。

### 2. ヘールカ曼荼羅の構成

ヘールカ曼荼羅は大きく4つの層に分かれる。第1層は俱生(sahaja)輪、第2層は法(dharma)輪、第3層は報(sambhoga)輪、第4層は応(nirmāna)輪と呼ばれる。これら4つの層は仏の四身(俱生身・法身・報身・応身)と結び付けられ、第1層を中心に順に同心円状に配置される。

第1層の内部も同心円構造になっている。中心には蓮華(padma)がある。(これに対し、ジャヤセーナはこの蓮華を「滴輪」(thig le'i 'khor lo)と呼ぶ。)この蓮華(あるいは滴輪)の外を金剛輪(vajracakra)が囲み、それをさらに心髄輪(hṛdayacakra)が、それをさらに功德輪(guṇacakra)が囲む。この功德輪の外周部には、四方に四門が、その他、四隅の部分および八尸林が配置される。

第2層は内側から虚空輪(ākāśacakra)、風輪(vāyucakra)、地輪(medinīcakra)という順で同心円構造になっている。この地輪の外周部には、四方に四門が、その他、四隅の部分および八尸林が配置される。第3層は内側から火輪(agnicakra)、水輪(jala-/udaka-cakra)、智輪(jñānacakra)という順で同心円構造になっている。この智輪の外周部には、四方に四門が、その他、四隅の部分および八尸林が配置される。これら第2層と第3層を構成する6つの輪は、5つの物質的要素(地・水・火・風・虚空)に精神的要素(智)を加えた六界にその名を由来している。

第4層は内側から心輪(cittacakra)、語輪(vākcakra)、身輪(kāyacakra)という順で同心円構造になっている。この身輪の外周部は円ではなく正方形になっており、四方に四門が、その他、四隅の部分および八尸林が配置される。この第4層を構成する3つの輪は、人間の活動の3種の領域(身・語・心)にその名を由来している。

以上の4つの層、すなわち13の輪(中央の蓮華を輪数に入れなければ12の輪)は、仏教(密教)コスモロジーを構成する様々な要素を象徴している。4つの層は仏の四身、および四生(4つの誕生形態)を象徴する。それらの層を構成する13の輪のうち中央の蓮華を除く12の輪(および四門・四隅)は、12の聖地カテゴリーと十三地(菩薩の悟りの13の水準)を象徴する。その他、三界(宇宙を構成する3つの領域:無色界・色界・欲界)、七州(地上にある7つの大陸)も象徴する。合計16の門(四門×4つの層)は十六空(16種類の空)も象徴する。

このようなヘルカ曼荼羅全体を東西南の4つに区画すると、東の区画は黒色がかかった紺色、北の区画は緑色、西の区画は赤色、南の区画は黄色になっている。また、この曼荼羅には、合計996人の勇者と荼枳尼たちがいる。勇者たちは全てヘルカの部族の出自であり、荼枳尼たちは全てヴァジュラヴァーラーヒーの部族の出自である。つまり、この曼荼羅の全ての勇者と荼枳尼たちは、この曼荼羅の最中心部に位置する主尊であるヘルカとヴァジュラヴァーラーヒーより流出した尊格たちである。以下、この曼荼羅の各層の詳細を見ていきたい。

### 3. 第1層（俱生輪）

#### 3.1. 蓮華（あるいは滴輪）

〈中央〉

Heruka と Vajravārāhī

〈東の花弁から北の花弁にかけて〉

(1)Dākinī、(2)Rūpikā、(3)Cumbikā、  
(4)Parāvṛtā、(5)Sabālikā、(6)Anuvartī

〈北の花弁から西の花弁にかけて〉

(7)Lāmā、(8)Yogeśvarī、(9)Bhadrā、  
(10)Kapālīnī、(11)Kaṅkālīkā、(12)Rāja-vartī

〈西の花弁から南の花弁にかけて〉

(13)Khaṅḍarohā、(14)Śmaśānī、(15)Vidravī、  
(16)Kurukullikā、(17)Rudantī、(18)Naṭī

〈南の花弁から東の花弁にかけて〉

(19)Rūpiṇī、(20)Bhairavī、(21)Śikhī、  
(22)Śikhaṅḍī、(23)Jaṭilī、(24)Rudrā

#### 3.2. 金剛輪

(1)Dākinī と Vajradāka、(2)Lāmā と Viśva-  
dāka、(3)Khaṅḍarohā と Padmadāka、(4)Rū-  
piṇī と Ratnadāka、(5)Pracaṅḍā と Khaṅḍa-  
kapālin、(6)Caṅḍākṣī と Mahākānkāla、  
(7)Prabhavātī と Kaṅkāla、(8)Mahānāsā と  
Vikaṭadaṃṣṭrin、(9)Vīramatī と Surāvairin、  
(10)Kharvarī と Amitābha、(11)Laṅkeśvarī と  
Vajraprabha、(12)Drumacchāyā と Vajra-  
deha、(13)Airāvātī と Aṅkurika、(14)Mahā-  
bhairavī と Vajrajaṭila、(15)Vāyuvegā と Mahāvīra、  
(16)Surābhakṣī と Vajrahūṃkāra、  
(17)Śyāmādevī と Subhadra、(18)Subhadrikā  
と Vajrabhadra、(19)Hayakarṇā と Mahā-  
bhairava、(20)Khagānanā と Virūpākṣa、  
(21)Cakravegā と Mahābala、(22)Khaṅḍa-  
rohā と Ratnavajra、(23)Śauṇḍinī と Haya-  
grīva、(24)Cakravartinī と Ākāśagarbha、(25)Suvīrā  
と Śrītheruka、(26)Mahābalā と  
Padmanarteśvara、(27)Cakravartinī と Vai-  
rocana、(28)Mahāvīryā と Vajrasattva、  
(29)Yāminī と Mahābala、(30)Kāminī と  
Jñānadāka、(31)Samcālinī と Dhairya、  
(32)Trāsinī と Sthairya、(33)Caṅḍikā と  
Mokṣa、(34)Sarasvatī と Jñāna、(35)Icchāsi-

ddhi と Upāya、(36)Mahājvālā と Cittavajra

#### 3.3. 心髓輪

(1)Vajradharī と Vajradhara、(2)Akṣobhyī と  
Akṣobhya、(3)Vairocanī と Vairocana、  
(4)Ratneśikā (Ratnaśikhinī) と Ratnaśikhin、  
(5)Padmanarteśvarī (Padmanartī) と Padma-  
narteśvara、(6)Amoghī と Amogha、(7)Lo-  
canī と Locana、(8)Māmakī と Māmaka、  
(9)Pāṅḍaravāsīnī (Pāṅḍarī) と Pāṅḍaravāsa、  
(10)Tārī と Tāra、(11)Rūpavajrī と Rūpavajra、  
(12)Śabdavajrī と Śabdavajra、(13)Gandha-  
vajrī と Gandhavajra、(14)Rasavajrī と Rasa-  
vajra、(15)Sparśavajrī と Sparśavajra、(16)  
Dharmadhātuvajrī と Dharmadhātuvajra、  
(17)Kṣitigarbhī と Kṣitigarbha、(18)Khaga-  
rbhakī と Khagarbha、(19)Vajrapāṇī (Pāṇī)  
と Vajrapāṇi、(20)Lokanāthī (Lokanāthanī)  
と Lokanātha、(21)Sarvanīvaraṇaviṣka-  
mbhinī (Sarvanī) と Sarvāvaraṇaviṣkambhin、  
(22)Samantabhadrī と Samantabhadra、  
(23)Ratnolkī と Ratnolka、(24)Nairātmyī  
(Nairātmyā) と Nairātmya、(25)Bhṛkuṭīkī  
(Bhṛkuṭī) と Bhṛkuṭika、(26)Paṇṣabari と  
Paṇṣabara、(27)Yamāntakī と Yamāntaka、  
(28)Prajñāntakī と Prajñāntaka、(29)Padmā-  
ntakī と Padmāntaka、(30)Vighnāntakī と Vi-  
ghnāntaka、(31)Acalī と Acala、(32)Nīladaṅḍī  
と Nīladaṅḍa、(33)Takkirājīnī (Takkirājī) と  
Takkirāja、(34)Mahābalī と Mahābala、  
(35)Uṣṇīṣī と Uṣṇīṣa、(36)Suṃbharājīnī (Su-  
mbharājī) と Suṃbharāja

#### 3.4. 功德輪

(1)Brāhmaṇī と Brāhmaṇa、(2)Kṣatrinī と  
Kṣatrin、(3)Vaiśī と Vaiśa、(4)Śūdrī と Śūdra、  
(5)Caṅḍālinī と Caṅḍāla、(6)Śvacī と Śvaci、  
(7)Ḍombī と Ḍomba、(8)Naṭī と Naṭa、  
(9)Kapālīnī と Kapālin、(10)Kaivartī と Kai-  
varta、(11)Veṇunaṭī と Veṇunaṭa、(12)Śaṅkhi-  
nī と Śaṅkhin、(13)Tantuvāyī と Tantuvāyaka、  
(14)Kandunī と Kanduka、(15)Kāṣṭhakārikā  
と Kāṣṭhakāraka、(16)Mālinī と Mālaka、  
(17)Tailinī (Tailī) と Taila、(18)Cheyī と Cheya、  
(19)Kośakārī と Kośakāra、(20)Dūtinī と Dūta、  
(21)Haḍagāḍī と Haḍagāḍa、(22)Ga-  
ṇikā と Gaṇaka、(23)Kallavālī と Kallavāla、  
(24)Kūpakāriṇī と Kūpakārin、(25)Rājabhaṭṭī  
と Rājabhaṭṭa、(26)Gaṭṭikī と Gaṭṭiki、(27)Ta-  
mbolavikrayī と Tambolavikraya、(28)Su-  
varṇakārī と Suvarṇakara、(29)Lohakārī  
(Lohārī) と Lohāra、(30)Maṇihārī と Maṇi-  
hāra、(31)Dāvakī と Dāvaka、(32)Mlecchauḍī  
と Mlecchauḍa、(33)Vanijī と Vanija、(34)Pa-  
tharagāḍhī (Patharagāḍhī) と Patharagāḍha-  
ka、(35)Kṛṣīkā (Kṛṣīkarī) と Kṛṣīkara、  
(36)Carmakārī と Carmakāra

〈四門・四隅〉

(東門) Kākāsyā、(北門) Ulūkāsyā、(西門) Śvānāsyā、(南門) Śūkarāsyā、(東南) Yamadādhī、(南西) Yamadūtī、(西北) Yamadamṣṭriṇī、(北東) Yamamathanī

〈その外側〉

東：(尸林) Caṇḍogra (木) śirīṣa 樹 (方位神) Indra (竜王) Vāsuki (雲王) Garjita、北：(尸林) Gahvara (木) aśvattha 樹 (方位神) Kubera (竜王) Takṣaka (雲王) Gharṇita、西：(尸林) Jvālākulakaraṅka (木) kaṅkelli 樹 (aśoka 樹) (方位神) Varuṇa (竜王) Karkoṭa (雲王) Ghora、南：(尸林) Bhībhīṣaṇa (木) cūta 樹 (方位神) Yama (竜王) Padma (雲王) Āvarta、北東：(尸林) Aṭṭahāsa (木) vaṭa 樹 (方位神) Īsana (竜王) Mahāpadma (雲王) Ghana、東南：(尸林) Lakṣmīvāna (木) karaṅja 樹 (方位神) Agni (竜王) Huluhulu (= Ananta) (雲王) Purāṇa (西藏訳では Pūrṇa)、南西：(尸林) Ghorāndhakāra (木) latāparkaṭi 樹 (方位神) Rākṣasa (竜王) Kulika (雲王) Varṣaṇa、西北：(尸林) Kilikilārava (木) pāṛthiva 樹 (方位神) Vāyu (竜王) Śaṅkhapāla (雲王) Caṇḍa

4. 第2層 (法輪)

4.1. 虚空輪

(1)Kinnarī と Kinnara、(2)Gandhārī (Gandharvī) と Gandhahara、(3)Huttakī と Huttaka、(4)Pāṭavī と Pāṭavi、(5)Vīṇā と Vīṇaka、(6)Vaṃśā と Vaṃśa、(7)Mukundā と Mukunda、(8)Murajā と Muraja、(9)Ga-rgarī と Gargara、(10)Kāmsyā と Kāmsya、(11) Śailendrikī と Śailendrika、(12)Gītā と Gīta、(13)Karaḍā と Karaḍa、(14)Tamaḍā と Tamaḍa、(15)Nṛtyā と Nṛtya、(16)Lāsyā と Lāsyā、(17)Dukkā と Dhakka、(18)Tālī- saraṇā と Tālīsarana、(19)Dundubhikā と Dundubhika、(20)Maudrī と Maudra、(21)Tānī と Tāna、(22)Mātunī と Mātu、(23)Tālavī と Tālava、(24)Ṭambhakī と Tambhaka、(25)Ḍamarī と Ḍamara、(26)Duṇḍukī と Du-ṇḍuka、(27)Kāhalī と Kāhala、(28)Orakī と Oraki、(29)Bhūkī (Bhukī) と Bhuki、(30)Gha-ṅṭā と Ghaṅṭa、(31)Kiṅkiṇī と Kiṅkini、(32)Ghurghurī と Ghurghura、(33)Ḍukolikā (Ḍakolikī) と Ḍakoliki、(34)Śaṅkhī と Śa-ṅkha、(35)Ghoṣavatī と Ghoṣavati、(36)Pa-rṣadā と Parṣad

4.2. 風輪

(1)Garuḍī と Garuda、(2)Haṃsī と Haṃsa、(3)Citṛī と Citra、(4)Kākī と Kāka、(5)Bakī と Baka、(6)Tittirikā と Tittiri、(7)Mayūrī と Mayūri、(8)Tāmracūḍī と Tāmracūḍa、(9)Gudapulikā と Gudapulika、(10)Komalā と Komala、(11)Pārāvātī と Pārāvata、(12)Br-

hatkākī と Brhatkāka、(13)Gaḍinī と Gaḍin、(14)Kapiṅjalī と Kapiṅjala、(15)Śukī と Śuka、(16)Mantrī (Mantriṇī) と Mantra、(17)Sārasā と Sārasa、(18)Gṛdhrā と Gṛdhra、(19)Ulūkī と Ulūka、(20)Caṭakī と Caṭaka、(21)Kāṣṭhacaṭakī と Kāṣṭhacaṭaka、(22)Cakravākī と Cakravāka、(23)Vṛkṣāraṇī と Vṛkṣāraṇa、(24)Karkavī と Karkava、(25)Jalakākī と Jalakāka、(26)Kabilāḍī と Kabilāḍa、(27)Nīlagṛivī と Nīlagṛiva、(28)Śārikā と Śārika、(29)Senā と Sena、(30)Kuṅkumalolā と Kuṅkumalola、(31)Vāṭirī と Vāṭira、(32)Kākajaṅhakī と Kākajaṅgha、(33)Sāmā と Sāma、(34)Lehapiṣṭā と Lehapiṣṭa、(35)Daddarī と Daddara、(36)Mṛgāriṇī と Mṛgāri

4.3. 地輪

(1)Siṃghī と Siṃgha、(2)Vyāghrī と Vyāghra、(3)Bhīmbhā と Bhīmbha、(4)Śaśī と Śaśa、(5)Gajī と Gaja、(6)Mṛgī と Mṛga、(7)Mārjārikī と Mārjāra、(8)Gāvī と Gāva、(9)Mahiṣī と Mahiṣa、(10)Turagī と Turaga、(11)Jambukī と Jambuka、(12)Gaṇḍī と Gaṇḍa、(13)Camārī と Camara、(14)Mūṣī と Mūṣa、(15)Gardabhī と Gardabha、(16)Bheḍī と Bheḍa、(17)Ajakī と Aja、(18)Eḍakī と Eḍa、(19)Śvānī と Śvāna、(20)Śūkarī と Śūkara、(21)Bhallī と Bhalla、(22)Daṇḍārī と Daṇḍāra、(23)Muṅjakī と Muṅja、(24)Vesarī と Vesara、(25)Vi-lāsī と Vilāsa、(26)Araṇī と Araṇi、(27)Brhacchvānikā と Brhacchvāni、(28)Dronakākī と Dronakāka、(29)Śārdūlī と Śārdūla、(30)Vyāḍā と Vyāḍa、(31)Citriṇī と Citrin、(32)Kuṭikā と Kuṭika、(33)Nakulī と Nakula、(34)Kṛkī と Kṛka、(35)Guhī と Guha、(36)Grāmanivāsini と Grāmanivāsin

〈四門・四隅〉

(東門) Brahmānī、(北門) Māheśvarī、(西門) Kaumārī、(南門) Vaiṣṇavī、(東南) Vārāhī、(南西) Indrī、(西北) Caṇḍī、(北東) Mahālakṣmī

〈その外側〉

東：(尸林) Māraṇa (木) pāga 樹 (方位女神) Indrī、北：(尸林) Saṃtrāsana (木) akṣiṭa 樹 (方位女神) Yamā、西：(尸林) Mahābhaya (木) kanālīra (=karavīra) 樹 (方位女神) Rudrā、南：(尸林) Bhayaṃkara (木) dāḍima 樹 (方位女神) Yakṣiṇī、北東：(尸林) Uccāṭaṇa (木) bilva 樹 (方位女神) Bhūtī、東南：(尸林) Vidveṣaṇa (木) āmalaka 樹 (方位女神) Rṣī、南西：(尸林) Mūkana (木) vijjāla 樹 (方位女神) Rākṣasī、西北：(尸林) Stambhana、(木) rudra 樹 (方位女神) Vāyubhāryā

5. 第3層 (報輪)

### 5.1. 火輪

(1)Devinī と Deva, (2)Nāginī と Nāga, (3)Yakṣī と Yakṣa, (4)Bhūti と Bhūta, (5)Mātā と Māta, (6) Bhāryā と Bhārya, (7)Bhaginī と Bhagin, (8)Duhitā と Duhita, (9)Bhā-gineyikā と Bhāgineyika, (10)Pitur-bhaginī と Pitur-bhagin, (11)[Sā-ca-]Mātulasya-bhāryakā と [Sā-ca-] Mātulasya-bhāryaka, (12)Bhāryābhaginī と Bhāryā-bhagin, (13)Mātā と Māta, (14)[Tasyaiva-]Pitur-mātrkā と [Tasyaiva-] Pitur-mātrka, (15)Bhāryā-pitāmahī と Bhāryāpitāmaha, (16)Mātur-mātā と Mātur-māta, (17)Bāndhavī と Bhā-ndhava, (18)Mātur-bhaginī と Mātur-bhagin, (19)Bhāgineyikā と Bhāgineyika, (20)Svamātur-mātā-bhaginī と Svamātur-mātā-bhagin, (21)Bhāgineyī と Bhāgineya, (22)[Asya-]Putrikā と [Asya-] Putra, (23)Pitur-mātā と Pitur-māta, (24)Pitāmahī と Pitāmaha, (25)Pitulasya-bhāryakā と Putulasya-bhārya, (26)Duhitāputrabhāryā と Duhitāputrabhārya, (27)Bhāryāyā-bhaginī と Bhāryāyā-bhagin, (28)Svapitur-bhaginī と Svapitur-bhagin, (29)Putrī と Putra, (30)[Tasyaiva-tu-]Svago-trajā と [Tasyaiva-tu-]Svago-traja, (31)Bhrātāyā-bhāryā と Bhrātāyā-bhārya, (32)Putrī と Putra, (33)Putrasyaiva-tu-bhāryakā と Putrasyaiva-tu-bhārya, (34)Duhitāyā-bhāryakā と Duhitāyābhāryakā, (35)Duhitā と Duhita, (36)Putrī と Putra

### 5.2. 水輪

(1)Makarī と Makara, (2)Kūrmī と Kūrma, (3)Macchā と Maccha, (4)Viṅgī と Viṅgi, (5)Kacchapī と Kacchapa, (6)Oḍḍikā と Oḍḍika, (7)Sūcī と Sūci, (8)Gagarī と Gaggari, (9)Mīlī と Mīli, (10)Jalaguhī と Jalaguha, (11)Kīṭimukhā と Kīṭimukha, (12)Phaṭiṅgī と Phaṭiṅga, (13)Karkaṭī と Karkata, (14)Mū-yī と Mūyi, (15)Maṣikā と Maṣika, (16)Pippaṭimukhā と Pippaṭimukha, (17)Jalanārī と Jalanāra, (18)Vaṭavī と Vaṭava, (19)Dantiṅī と Danti, (20)Vyāghrī と Vyāghra, (21)Jambukī と Jambuka, (22)Jalāhī と Jalāhi, (23)Śaṅkhā と Śaṅkha, (24)Kapardī と Kaparda, (25)Muktikī と Mukti, (26)Maṅī と Maṅi, (27)Jiṅgurī と Jiṅguri, (28)Līśī と Līsi, (29)Durdurī と Durduri, (30)Kaṅṅāṭī と Kaṅṅāṭti, (31)Phāṭakī と Phāṭaka, (32)Dāvakī と Dāvaka, (33)Kṛmī と Kṛmi, (34)Juṣujuṣī と Juṣujuṣi, (35)Daṃśakī と Daṃśaka, (36)Kalā と Kala

### 5.3. 智輪

(1)Tilottamā と Tilottama, (2)Atisukhā と Atisukha, (3)Apsarasā と Apsarasa, (4)Ma-

hāratā と Mahārata, (5)Ratī と Rati, (6)Ratākhyā と Ratākhya, (7)Padminī と Padmaka, (8)Śaṅkhinī と Śaṅkha, (9)Citriṅī と Citraka, (10)Gajā と Gaja, (11)Mahārūpā と Mahārūpa, (12)Surūpā と Surūpa, (13)Kāntā と Kānta, (14)Vilāsinī と Vilāsa, (15)Sukhā と Sukha, (16)Puṣpakāmī と Puṣpakāma, (17)Kumudī と Kumuda, (18)Nīlotpalā と Nīlotpala, (19)Sundarī と Sundara, (20)Rāgā と Rāga, (21)Mahārāgā と Mahārāga, (22)Rāmākhya と Rāmākhyā, (23)Mahā-rāmākī と Mahārāmaka, (24)Madanā と Madana, (25)Madanapriyā と Madanapriya, (26)Kāminī と Kāmin, (27)Mahākāmikā と Mahākāmika, (28)Sukhodbhavā と Sukhodbhava, (29)Sukhamatī と Sukhamati, (30)Priyatamā と Priyatama, (31)Premakā と Premaka, (32)Saubhāgyamatī と Saubhāgyamat, (33)Saubhāgyā と Saubhāgya, (34)Meṇukā と Meṇuka, (35)Pradyumnakī (Pradyumnakī) と Pradyumnaka, (36)Jā-tirūpī と Jātirūpa

〈四門・四隅〉

(東門) Gaurī, (北門) Caurī, (西門) Vetālī, (南門) Ghasmarī, (東南) Pukkasi, (南西) Śabarī, (西北) Caṇḍālī, (北東) Ḍombī

〈その外側〉

東：(尸林) Bālamrtyu (木) candana 樹 (方位神) Ravi, 北：(尸林) Veṣṭabhakṣa (木) karpūra 樹 (方位神) Śītala, 西：(尸林) Ghorayudh (木) jātiphala 樹 (方位神) Bhūsuta, 南：(尸林) Sarvadaṃśaka (木) elā 樹 (方位神) Śasisuta, 北東：(尸林) Dhūmāndhakāra (木) nāgakeśara 樹 (方位神) Guru, 東南：(尸林) Agni (木) campaka 樹 (方位神) Bhṛgu, 南西：(尸林) Hāhārava (木) kuṇḍala 樹 (方位神) Ravitana, 西北：(尸林) Mahārava (木) devadāru 樹 (方位神) Daityasiraḥ

## 6. 第4層 (応輪)

### 6.1. 心輪

(1)Nāginī と Nāga, (2)Yakṣiṅī と Yakṣa, (3)Bhūti と Bhūta, (4)Pretī と Preta, (5)Nārakī と Nāraka, (6)Avīcī と Avīci, (7)Pātākī と Pātaka, (8)Anantarī と Anantara, (9)Kumbhī と Kumbha, (10)Yamastrī と Yamapuraṣa, (11)Kālasūtrī と Kālasūtra, (12)Kukūlī と Kukuli, (13)Tapanī と Tapanā, (14)Pratāpanī と Pratāpana (Pratapanī と Pratapanā), (15)Rauravī と Raurava, (16)Mahā-rauravī と Mahāraurava, (17)Tailapacī と Tailapaca, (18)Dviparvatī と Dviparvata, (19)Dveṣī と Dveṣa, (20)Mohī と Moha, (21)Īrṣyī と Īrṣya, (22)Rāgī と Rāga, (23)Madanamātsaryasī と Madanamātsaryasa, (24)Sūtrikā と Sūtra, (25)Śītakī と Śītaka, (26)Asivānī と Asivānaka, (27)Krandanī と

Krandana、(28)Durbhikṣakā と Durbhikṣaka、(29)Rogakāntārī と Rogakāntāra、(30)Śastrakāntārī と Śastrakāntāraka、(31)Pāṇīyakāntārikā (Pāṇīyakāntārī) と Pāṇīyakāntāra、(32)Asinakhī と Asinakha、(33)Vaitaraṇī と Vaitaraṇa、(34)Kṣuradhārī と Kṣuradhāra、(35)Cakrikā と Cakraka、(36)Kumbhāṇḍī と Kumbhāṇḍa

## 6.2. 語輪

(1)Pūjā と Pūjācinta、(2)Bhakṣā と Bhakṣācinta、(3)Nidrā と Nidrācinta、(4)Ālasyā と Ālasyācinta、(5)Dharmacintā と Dharmacinta、(6)Bhāvanā と Bhāvanācinta、(7)Gṛhacintā と Gṛhacinta、(8)Strīcintā と Strīcinta、(9)Arthacintā と Arthacinta、(10)Viyogikā と Viyogācinta、(11)Putracintā と Putracinta、(12)Śokā と Śokācinta、(13)Dhyānā と Dhyānācinta、(14)Mantrajāpikā と Mantrajāpacinta、(15)Hṛīkā と Hṛīcinta、(16)Māna と Mānacinta、(17)Saṃtāpā と Saṃtāpacinta、(18)Sattvārthakarūḍyamā と Sattvārthakarūḍyamācinta、(19)Rājacintā と Rājācinta、(20)Paradrohā と Paradrohācinta、(21)Jñānalābhā と Jñānalābhācinta、(22)Tapasvīnī と Tapasvīcinta、(23)Jarā と Jarācinta、(24)Marāṇacintā と Marāṇācinta、(25)Sukhā と Sukhācinta、(26)Duḥkhā と Duḥkhācinta、(27)Aśubhā と Śubhācinta、(28)Astikā と Asticinta、(29)Nāstikā と Nāsticinta、(30)Gurucintā と Gurucinta、(31)Gamanikā と Gamanācinta、(32)Kṣamā と Kṣemācinta、(33)Akṣamā と Akṣemācinta、(34)Śrāntā と Śrāntācinta、(35)Viśrāntā と Viśrāntācinta、(36)Bubhukṣitā と Bubhukṣitācinta

## 6.3. 身輪

(1)Cāturmahārājākāyikī と Cāturmahārājākāyīkacakravartin、(2)Trayastrīṃśacakravartinī と Trayastrīṃśacakravartin、(3)Yāmī と Yāmacakravartin、(4)Tuṣitī と Tuṣitacakravartin、(5)Nirmāṇaratayī と Nirmāṇaratacakravartin、(6)Paranīrmitavaśavartinī と Paranīrmitavaśavartīcakravartin、(7)Brahmakāyikī と Brahmakāyīkacakravartin、(8)Brahmapurohitī と Brahmapurohitacakravartin、(9)Mahābrahmāṇavartinī と Mahābrahmāṇacakravartin、(10)Parīttābhī と Parīttābhācakravartin、(11)Apramāṇābhī と Apramāṇābhācakravartin、(12)Ābhāsvarī と Ābhāsvarācakravartin、(13)Parīttāśubhī と Parīttāśubhācakravartin、(14)Apramāṇāśubhī と Apramāṇāśubhācakravartin、(15)Śubhākṛtsnī と Śubhākṛtsnacakravartin、(16)Anabhrakī と Anabhrakacakravartin、(17)Puṇyaprasavī と Puṇyaprasavācakravartin、(18)Bṛhatphalacakravartinī と Bṛhatphala-

cakravartin、(19)Abṛhī と Abṛhācakravartin、(20)Atapī と Atapācakravartin、(21)Sudṛṣī と Sudṛṣācakravartin、(22)Sudarśanī と Sudarśācakravartin、(23)Akaniṣṭhāvartinī と Akaniṣṭhācakravartin、(24)Ākāśānāntyāyatanī と Ākāśānāntyāyatanācakravartin、(25)Viññānānāntyāyatanī と Viññānānāntyāyatanācakravartin、(26)Ākiṃcanyāyatanī と Ākiṃcanyāyatanācakravartin、(27)Naivasamjñānsamjñānī と Naivasamjñānsamjñānacakravartin、(28)Nārakī と Nārakācakravartin、(29)Pretanī と Pretācakravartin、(30)Tiryī と Tiryācakravartin、(31)Nārī と Nārācakravartin、(32)Asurī と Asurācakravartin、(33)Vimānacāriṇī と Vimānacakravartin、(34)Śāśī-Ravī と Śāśīravīcakravartin、(35)Yamī と Yamācakravartin、(36)Indrī と Indrācakravartin

〈四門・四隅〉

(東門) Śvetāmbujā、(北門) Gāndhārikā、(西門) Vajraṇaṭī、(南門) Vaḍavāmukhā、(東南) Vajrabhṛkuṭīmukhī、(南西) Vajrakhaṇḍī、(西北) Vajracāṇḍī、(北東) Vajrajvālāmukhī

〈その外側〉

東：(尸林) Dagdha (木) śālmali 樹 (地獄の守護女) Śālmali、北：(尸林) Adagdha (木) aśoka 樹 (地獄の守護女) Aśokavṛkṣā、西：(尸林) Khaṇḍita (木) pārijāta 樹 (地獄の守護女) Pārijātā、南：(尸林) Akhaṇḍita (木) udumbara 樹 (地獄の守護女) Umbarī (= Udumbarī)、北東：(尸林) Bhīṣaṇa (木) ḍombara 樹 (地獄の守護女) Ḍombarī、東南：(尸林) Bhayamkara (木) gambhīra 樹 (地獄の守護女) Gambhārī、南西：(尸林) Śūlabhinna (木) khadira 樹 (地獄の守護女) Khadirakī、西北：(尸林) Udbandhaka (木) piśāca 樹 (地獄の守護女) Piśācakī

## 7. 『ダーカールナヴァ・タントラ』の各章とヘールカ曼荼羅の関係

『ダーカールナヴァ・タントラ』の各章の教説は、上述ヘールカ曼荼羅の中核となる(つまり、第1層俱生輪を構成する)サンヴァラ系密教伝統の尊格たちと関連付けられている。このように、『ダーカールナヴァ・タントラ』には、サンヴァラ系密教伝統を骨格として仏教内外の様々な要素をそのコスモロジーの内に包摂した体系を構築しようという意図が見られる。

(以上、研究成果)

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

研究者番号：40422349

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① Tsunehiko Sugiki (杉木恒彦)、The *Homa* System of the *Vajraḍākatantra*: A Critical Edition and a Preliminary Analysis of its *Homa* System. *Tantric Studies*, Vol. 1、Center for Tantric Studies, University of Hamburg、2008、pp. 131-154.
- ② Tsunehiko Sugiki (杉木恒彦)、The Structure and Traditions of the Systems of Holy Sites in Buddhist *Samvara* Cycle and its Related Scriptural Cycles in Early Medieval South Asia: The Geography of Esoteric Buddhism in the Eyes of the Compilers of Scriptures、*Genesis and Development of Tantrism* (edited by Shingo Einoo, Institute of Oriental Culture Special Series 23)、Institute of Oriental Culture, the University of Tokyo、2009、pp. 515-562.
- ③ Tsunehiko Sugiki (杉木恒彦)、The Consumption of Food as a Practice of Fire-oblation in Esoteric Buddhism in Medieval South Asia、*International Journal of South Asian Studies*, Vol. 3、Japanese Association for South Asian Studies、2010、pp. 53-79.

〔学会発表〕（計2件）

- ① Tsunehiko Sugiki (杉木恒彦)、The Food-homa of Esoteric Buddhism in India、*The XVth Congress of the International Association of Buddhist Studies*、Emory University (Atlanta, Georgia, USA)、June 23-28、2008.
- ② Tsunehiko Sugiki (杉木恒彦)、Systems of Psychosomatic Fire-oblation in Esoteric Buddhism in South Asia — Practice of Oblation, Non-conceptual Meditation, and Subtle-body Yoga、*Variations of Homa: From Vedic to Hindu and Buddhist*、Harvard University (Cambridge, Massachusetts, USA)、October 1-3、2010.

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

- 出願状況（計0件）
- 取得状況（計0件）

〔その他〕

特になし。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

杉木 恒彦 (SUGIKI TSUNEHICO)

早稲田大学・国際教養学院・講師

### (2) 研究分担者

なし。

### (3) 連携研究者

なし。